

目 次

ブナ林の四季		2. 住まい	13
森の動物たち		3. 炭焼き	14
森の植物たち		4. 手仕事	15
I 森林の起源	1	5. 山の神	16
II 森の生態	2	6. 民話の世界	17
ブナ林の森	2	V 木の文化	19
1) 長野県の植生	2	1. 木の文化を支える職人たち	19
2) ブナ林	4	1) 柚	19
III 森の文化史	6	2) 木地屋	19
1. 豊かな森とドングリ	6	3) 割りもの師	20
2. 山境の争い—飯縄山論争—	8	4) 桶づくり	20
3. 善光寺の再建—木寄せ—	9	5) 下駄づくり	21
4. 木曾の伐木運材今昔	10	6) 漆かき	21
5. 佐久間象山の志賀高原開発	11	2. 用材としての樹木	22
6. 森林浴	11	VI 森林と自然環境の保全	24
IV 山の民と暮らし	12	1. 森の働き	24
1. 身じたく	12	2. 森の文化はいま!	24

例 言

1. 本書は開館6周年記念特別企画展「森の文化」の展示解説として作成しました。
2. 本書を作成するにあたって、多くの書籍から図や表を転載させていただきました。〈文〇〉で出典の文献を巻末に番号で記しました。
3. 資料の提供はじめ、ご指導ご協力いただいた方々のお名前は巻末に掲載させていただきました。
4. 本書の解説執筆は山口明、安室知（IV章6）、和田博（III章2）が担当しました。

特別企画展

“森の文化” 開催にあたって

長野市立博物館長

掛川 一夫

当館は、昭和56年9月23日開館以来、6年の歳月を来館者のみなさんとともに過ごし、50万人にならんとする方々が、ここを訪ねられ、長野盆地の歴史と人々の生活について勉強されました。

この間に、一昨年、茶臼山自然史館分館設立という事業も完遂しましたが、本館で開催する企画展については、多くの方々から期待されつつ、16回に及ぶ展示を重ねて来ました。これは、常設展示の概観性を補充する意味と、学芸員の研究の成果を発表する場として、博物館自身の活力を涵養するためにも大いに役立って来ました。

もう一つの企画展への期待は、来館者の旺盛な知識への要望におこたえできるという点にあります。当館では、開設以来追求してきた“自然とともに生きる。”風土に合った生活を見る。”という課題を、より具体的に、より現実的に展示してゆくことが、企画展の使命と考えているところです。

今回の“森の文化”は、何万年にも及ぶこの地方での人間の歴史の中で、森と人間の生活の深い関係を見ていただくとともに、今後も続けていかなければならない森と人間とのつきあいを考える場として開催するものです。

この企画展の開催のため、現在も森に働き木とともに生活している多くの方々の御指導と御協力をいただきました。そして、これらの人々を支えている長野営林局・長野県林務部等の現場の指導者の方々から、直接御指導も賜りました。ここに感謝申し上げるとともに、御来館各位の御指導を期待してやみません。